

# 浅間山の 生い立ち

浅間山は10万年前から何度も噴火をくりかえしてきた活火山です。



- 1 約10万年～2万年前** 浅間山の前身である高貴火山が成長を続けていました。この火山は富士山に似た形で、標高は2,800メートル以上あったと推定されています。
- 2 約2万年前** 水蒸気爆発によって山体が崩壊し、土石なだれが山麓に堆積しました。この時発生した泥流は、中之条や前橋付近でも厚く堆積しました。
- 3 約2万年～1万7千年前** 山体崩壊により高貴形のカルデラが形成され、その中に仏前火山が形成されました。小窪山がつくられたのもこの時代です。
- 4 約1万7千年～1万1千年前** 火砕流が何度も起き、とくに1万4千年前と1万1千年前の噴火では大規模な火砕流が発生し、南北両方向に30メートル以上の厚さで堆積しました。
- 5 約1万年～9000年前** 仏前火山の上から溶岩流や火砕流、火山灰が繰り返し噴出して、新しい山体である新原山が形成されました。
- 6 西暦1108(天仁元)年** 大規模な噴火が起こり、噴石、火山灰、追分火砕流、舞台溶岩流などが噴出しました。
- 7 西暦1783(天明3)年** 大規模な噴火で噴石、火山灰、噴石なだれ、天明泥流、香掛泥流、鬼押し溶岩流などが発生し、大災害になりました。

## 歴史時代の主な噴火災害

昔の記録に残っている浅間山の噴火災害のうちとくに被害が大きかったものを紹介します

### 天明の噴火

天明の噴火は、1783(天明3)年5月9日<sup>※</sup>に始まってから、噴火したり収まったりを繰り返しながら、次第に活動が大きくなっていきました。7月27日<sup>※</sup>頃から噴火が連続するようになり、8月4日から5日<sup>※</sup>にかけて、最も激しい噴火が起こりました。

<b>発生した現象</b>	火山灰、噴石、香妻火砕流、鎌原土石なだれ、天明泥流、香掛泥流、鬼押し溶岩流
<b>主な被災地域</b>	山麓の鎌原集落、香妻川沿いの地域、軽井沢町(当時の軽井沢藩)
<b>死者</b>	1400名以上
<b>倒壊家屋</b>	1000棟以上



天明の噴火時に香妻川沿いに流れた火山泥流(浅間山権香妻川附村々絵図(藤原道氏模写))



**天明泥流の流下範囲**  
1783(天明3)年の噴火で発生した泥流の流下範囲を示しています。  
天明泥流が発生の原因になった「鎌原土石なだれ」の流下範囲を示しています。



### 天仁の噴火

1108(天仁元)年にも、浅間山は大噴火を起こしました。古い時代のことなので天明の噴火ほどの記録は残っていませんが、中御門右大臣藤原宗忠の書いた「中右記」に噴火のときの様子が記されています。

<b>発生した現象</b>	火山灰(前橋で20センチメートル以上の厚さに積もりました)、噴石、追分火砕流(約80平方キロメートル以上を覆いました)、舞台溶岩流
	[火山噴出物の量は天明の噴火の2倍以上]



天明の噴火時に高温の軽石や火山灰から逃げまどう人々(浅間山権屏之記)

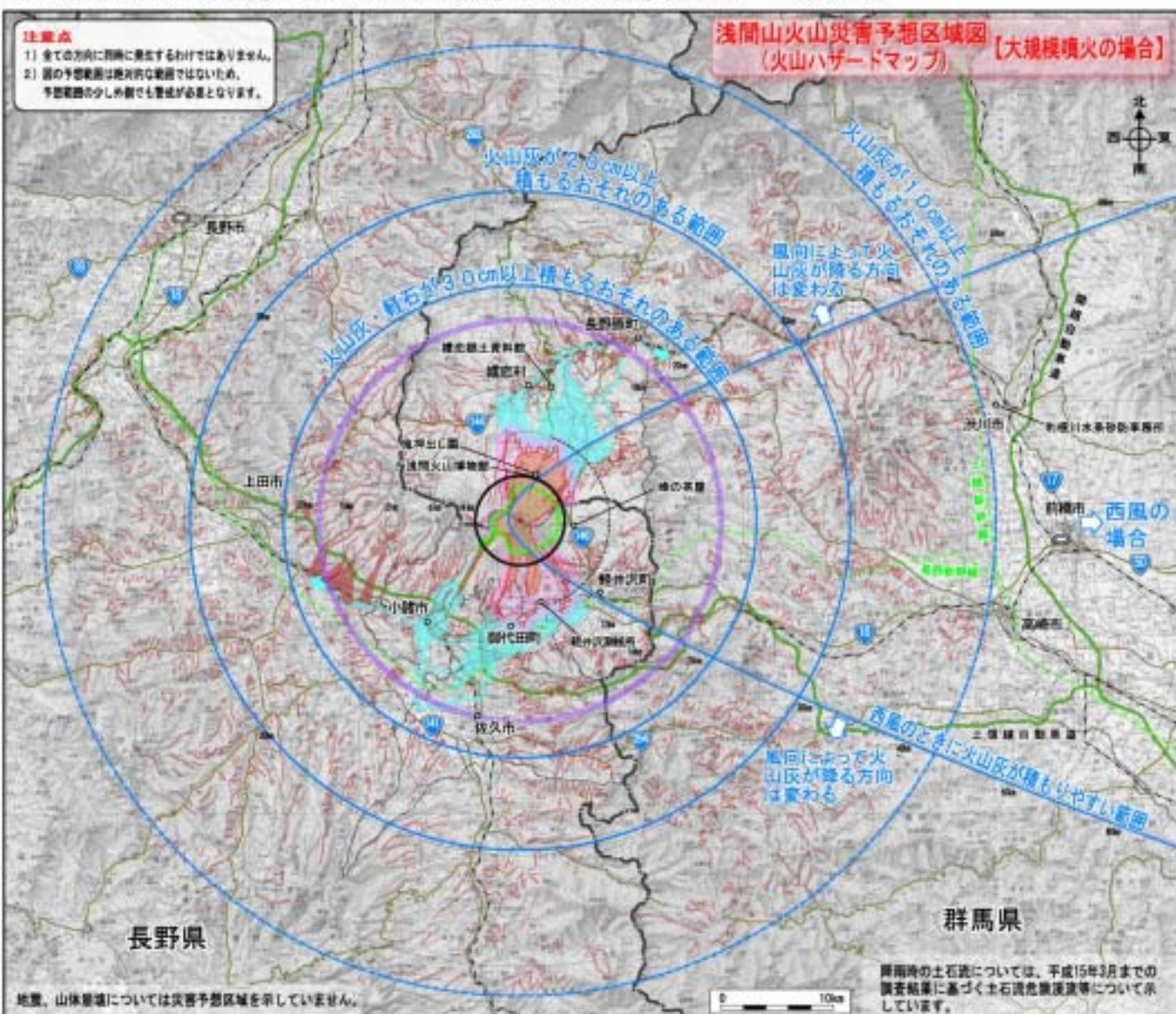
「国内に麻間峯という高山がある。治暦年間に煙を噴いたが、その後しばらく収まっていた。天仁元年七月二十一日に猛然と噴火を始め、煙は天まで登り、砂塵は国内に降りそそぎ、国内の田畑は全滅してしまった。一国の被害でこれほどひどい例は未だかつてない。稀な不思議の事件なので記し置くものである。」  
『中右記』の現代語訳



舞台溶岩流の上に、鬼押し溶岩流の一部が見られます。(大里・藤原道氏より撮影)

## もしも天明の噴火のような大噴火がおきたら...

浅間山は過去2千年間に3回の大噴火を起こしました。たくさんの方を助けた「天明の噴火」もそのうちの一つにあたります。



この図に示す2枚の予想図は、天明の噴火と同じような大規模な噴火が、浅間山の山頂火口から北側(新原集落)あるいは南側(長野集落)に向かって発生した場合の災害予想範囲を示しています。



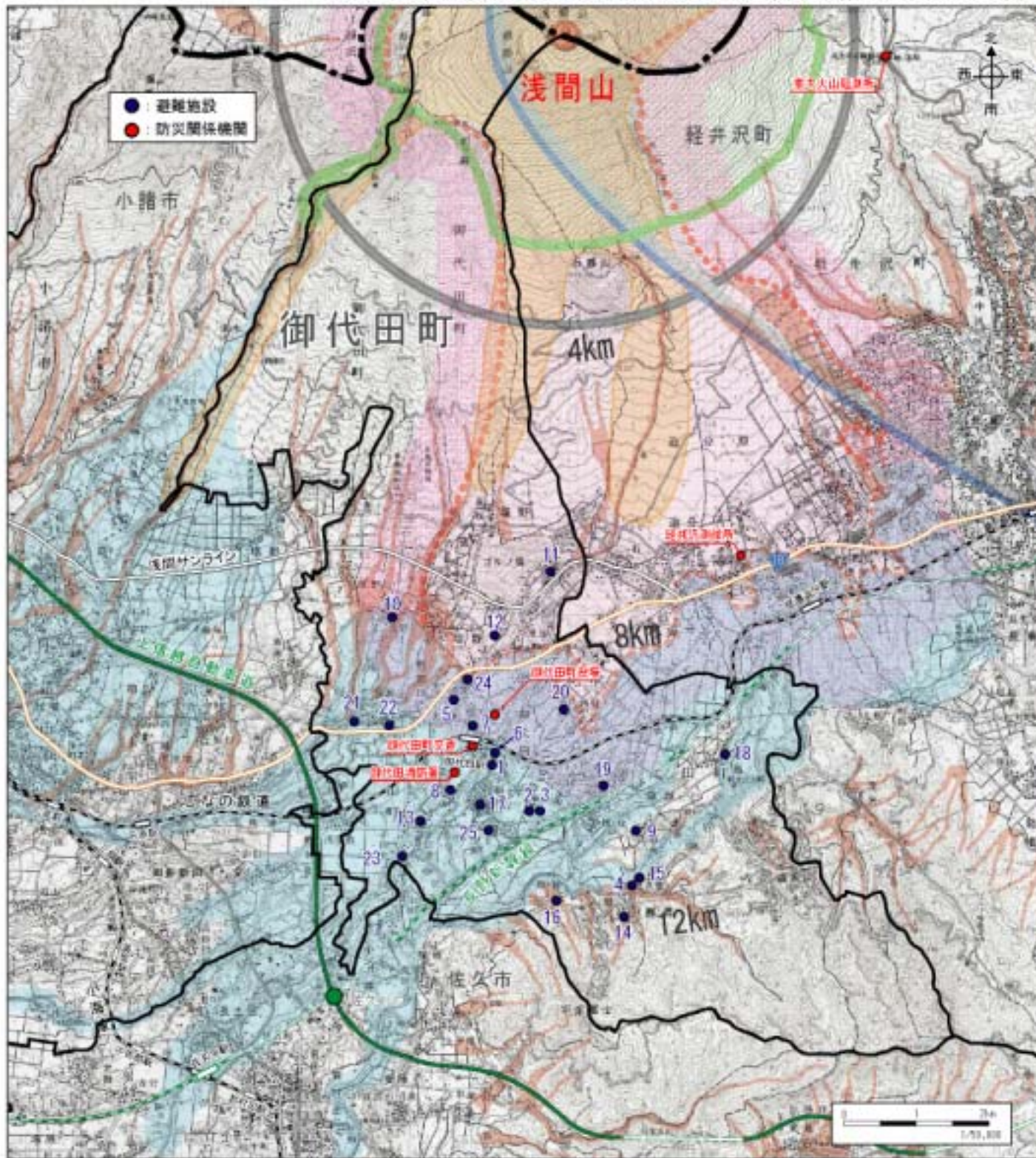
浅間山では、天明の噴火よりも大きな規模の噴火がおこることもあります。例えば、天仁の噴火は天明の噴火の2倍以上の規模でした。もしも、天仁の噴火のような大規模な噴火が起きた場合には、左の図に示したよりもさらに広い範囲に火砕流や融雪型火山泥流の被害がおよぶと予想されます。

記号の色と意味	想定火口	火山ガス	噴石	空振	火山灰(降灰)	降雨時の土石流	火砕流と熱風	融雪型火山泥流	溶岩流
	浅間山の山頂火口を想定しています。	高温のガスが溜まりやすい予想範囲です。	実線: こぶしより大きい噴石が飛んでくる予想範囲です(半径4km)。破線: 風下側で小石が飛んでくる予想範囲です(半径8km)。	空振による被害を受ける予想範囲です(半径18km)。	火山灰が積もる予想範囲です。大規模噴火の時には軽石も混ざって降ります。	降雨時の土石流の流下予想範囲です。	火砕流と熱風の流下予想範囲です。	積雪期の融雪型火山泥流の流下予想範囲です。	溶岩流の流下予想範囲です。

# 避難施設

避難の際には、町役場からの指示に従って行動してください。避難が必要になった時には、防災行政無線などで町役場から噴火の被害を受けにくい避難施設が指定されます。

下に示した噴火の影響範囲は、天明の噴火と同規模の噴火が発生したときの予想範囲です。なお、これよりも大規模な噴火が起きた場合には、さらに広い範囲に影響が及ぶと予想されます。



## 避難に関する問い合わせ先

御代田町役場 電話0267-32-3111

## 地区別の避難施設一覧

地区	番号	施設名	所在地	電話 (0267)
御代田	1	御代田中学校	御代田2718	32-2117
御代田	2	御代田南小学校	御代田4107-41	21-3251
御代田・佐賀	3	惣宮球場	御代田4107-96	32-7101
佐賀	4	旧佐賀小跡地	豊井	-
小沼	5	御代田北小学校	馬瀬口1925	32-2068
栄町	6	栄町会館	御代田2456-1	32-3301
	7	御代田町人権啓発センター	馬瀬口1860-17	32-6922
高町	8	高町公民館	御代田2158	32-6718
広戸	9	広戸公民館	広戸702	32-9627
塩野	10	塩野公民館	塩野1420	32-9928
清方	11	清方公民館	塩野2007	32-9930
一里塚	12	一里塚公民館	馬瀬口1507-25	32-9925
上塚	13	上塚公民館	御代田1772-2	32-7096
豊井	14	豊井公民館	豊井1812-1	32-9928
	15	豊井第二公民館	豊井1183-1	32-9937
国替	16	国替公民館	国替544	32-9928
平和台	17	平和台公民館	御代田2714-133	32-4992
草越	18	草越公民館	草越410-1	32-9366
内原	19	内原公民館	草越1140-84	32-4993
西軽井沢	20	西軽井沢公民館	御代田4109-406	32-6062
	21	御代田町同和教育委員会	馬瀬口282-1	32-9925
馬瀬口	22	馬瀬口高齢者創作館	馬瀬口2032-6	32-9970
小田井	23	小田井公民館	御代田1933-1	32-6145
三ツ谷	24	三ツ谷公民館	馬瀬口2039-8	32-9972
尾玉	25	尾玉公民館	御代田3946	32-2136

## 防災関係機関連絡先

関係機関名	電話
役場	御代田町役場 0267-32-3111
消防	御代田消防署 0267-32-0118
警察	佐久警察署 御代田町交番 0267-32-2039
火山観測	気象庁 軽井沢観測所 0267-45-1304 東京大学 浅間火山観測所 0267-45-7951
	佐久水道企業団 0267-62-1280
	中部電力 佐久営業所 0267-62-1141
ライフライン	NTT 東日本 長野支店(災害対策室) 026-223-4361 小諸ガス 管理事務所 0267-22-3481
その他	長野県 佐久地方事務所 0267-63-3111 (代表) 長野県 佐久建設事務所 (代表) 国土交通省 利根川水系砂防事務所 0279-22-4177 (代表) 財団法人 砂防・地すべり技術センター 08-5276-3272

## 普段から災害に備えて

浅間山ではどのような噴火災害が考えられるのかこの「浅間山火山防災マップ」で知っておきましょう。

普段から非常持ち出し品を揃えておきましょう。

家族みんなで避難場所を確認しておきましょう。

地震に備えて家具の固定や壁の補強をしておきましょう。

## もし噴火がはじまったら?

気象庁が発表する「火山情報」に注意しましょう。

町長から避難勧告などの指示があった場合には従いましょう。

テレビやラジオ、役場の広報などから正しい情報を入手し、デマやうわさをまじらさないようにしましょう。

緊急火山情報があれば、いつでも避難できる準備をしましょう。

## 避難する場合は...

- あわてず落ち着いて行動する。
- 戸締り、電気、ガスの元栓を確認する。
- 貴重品を忘れずに持つ。
- 市街地では車を使わず歩いて避難する。
- お年寄り、赤ちゃん、身体の不自由な人、外国人などの避難を助けましょう。



## 災害用伝言ダイヤル(177)

近隣の災害用伝言ダイヤルには、NTTの「災害用伝言ダイヤル」が利用できます。

留守なしで①⑦①にかける。自動アナウンスにしたがって録音に自分のメッセージを残すことができます。

## 避難のときの持ち出し品

- 噴火が長引くと、避難先で何日も暮らすことも考えられます。大切なものはすぐに持ち出せるよう、心がけておきましょう。
- 特に火山噴火の時に必要となるもの**
- ヘルメット(防災ずきん) → 噴石や落下物から頭を守る。
  - マスク → 細かい火山灰を吸い込むのを防ぐ。
  - ゴーグル → 細かい火山灰から目を守る。
- 主な持ち出し品リスト**
- 必要なものにしるしをつけて、普段から備えておきましょう。
- 着替え、下着類
  - 洗面用具、衛生用品
  - 手ぶくろ・軍手
  - かさ、カップ
  - リュックサック
  - 毛布・タオル
  - 非常食、し好品
  - 懐中電灯と電池
  - 携帯ラジオ、テレビ、電池
  - 常備薬、救急箱
  - 現金、小銭
  - シート、ビニール袋
  - ガムテープ(粘着テープ)
  - (腕)時計
  - 通帳、カード、印鑑、証券など
  - 健康保険証
  - 携帯電話(充電器など)
  - ライター
  - ちり紙、ティッシュペーパー
  - ほ乳ビン、ミルク、おむつ、母子手帳(赤ちゃんがいる場合)
  - お年寄り用常備薬など(お年寄りがいる場合)
  - その他個人的な貴重品
- 自衛隊や消防団、ボランティア、市民の協力など